



しかはま自然観察会

のらえもん

2024 年度

No. 12

2024. 12. 07

『 人も 自然も みんな友だち 』

第12回活動 サケの一生の紙芝居と地球温暖化、冬の野鳥観察

サケの紙芝居では、子どもたちと相互にやりとりしながら話を進めることができました。

新芝川では、水に浮かぶカモを観察できました。

暖かな日差しを受けながらの野外活動は、気持ちをスカッとさせてくれました。

1, 日 時 : 2024年12月7日(土) 14:00~16:00

2, 天 気 : 小春日和

3, 場 所 : 都市農業公園

4, 参加者 : 総数 12	内訳 大人	3
	小学	3
	幼児	2
	スタッフ	4

5, 活動の様子

暖かい日差しの中を、総勢12人で、ブラブラ歩きながら見つけたものを言い合いました。子どもたちと歩くだけで、「しあわせ」を感じました。

次の様な順番で、歩きました。

①サケの紙芝居と地球温暖化のおはなし

ピンク色の受精卵が2000千個も入った箱を出して、「これが、サケの赤ちゃんになるんだよ」という光景は、遠い過去のものとなりました。

受精卵の配布は無くなり、昨年から地球温暖化を取り入れるようになったのです。

始めに、サケの親が川を上り、自分は死んで新しい命を残していくことを紙芝居で話します。

そのサケは、今はなかなか川に戻って来ないこと、戻れない原因は、海水の温度が高くなって住めなくなっていること、たくさん捕れた北海道の方でも、捕れなくなっていること、などを話しました。

子どもたちからは「どうして?」「なぜ?」という言葉がとんできました。

②野鳥観察

新芝川には、たくさんのカモ類が水面で休んでいました。水門の上では、アオサギがじっとたたずんでおり、見つけるのに苦労しました。

観察した野鳥・・・カラス、アオサギ、コサギ、コガモ、カルガモ、ホシハジロ、カイツブリ、オオバン、カワウ、カンムリカイツブリ、ハクセキレイ

③カマキリの卵を探す

荒川の河川敷に移動し、カマキリの卵を探しました。なかなか見つかりません。そのかわり、ひつつき虫のセンダングサが至る所にあり、お互いにくっつけあって遊びました。オオオナモミはまったく見つかりません。

河川敷の野草たちにも、激しい生存競争があるようでした。

④冬の野菜畑観察

玉ねぎを沢山植えてありました。秋に苗を植え、寒い冬を越すとどんどん生長して、葉玉ねぎになり、7月頃に葉は枯れて茶色の玉ねぎを収穫します。

玉ねぎは、葉の部分が球状に大きくなり、それを私たちは食べています。

6, ふり返りの感想

○ サケのかみしばいが楽しかった。

かしわざき小2年

○ サケのかみしばいが楽しかった。

かしわざき小3年

○ 鳥を見たりかまきりの卵をさがしたりと、
ゆっくり自然にたわむれて、良かったです。
温暖化 サケの一生 悲しいな

年少

母

○ さけのいっしょうのかみしばいに
かんどうしました。

くりしま小1年

○ サケの一生のかみしばいが
たのしかったです。
くつつきむしを
のらえもんのみんなにつけました。

くりしまようちえん

父

○ バードウォッチングと秋のさんぽ
芝川をじっくりみると、鳥がチラホラと。
普段、川でのんびり散歩なんてしないので、
じっくりと鳥を探したり、
とても楽しかったです。
カサカサと 歩くとなくよ 散歩道

スタッフ